

2025 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野 崎 秀 則
(東証スタンダード市場・コード番号 2 4 9 8)
問合せ先 取締役統括本部長 橘 義 規
TEL 0 3 - 6 3 1 1 - 6 6 4 1

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
「2025 年度グッドデザイン賞」を 2 件受賞
旭川市平和通買物公園エリアの地域共創まちづくり（まちにち計画）
御堂筋ほこみちユニットベンチプロジェクト

当社グループの基幹会社である株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）がデザインを担当した、「旭川市平和通買物公園エリアの地域共創まちづくり（まちにち計画）」と「御堂筋ほこみちユニットベンチプロジェクト」の 2 件が、このたび、2025 年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

「地域共創まちづくり まちにち計画」は、日本初の歩行者専用道路である旭川市平和通買物公園を舞台に、市民による空間活用の取組みと、行政による公共空間活用促進のための新たなルールづくりを組み合わせ、市民が自らまちの日常を作り出す地域共創の取組みです。同社は買物公園エリアプラットフォームやデザイナーとともに滞在空間や活用の制度設計等をデザインしました。

「御堂筋ほこみちユニットベンチプロジェクト」は、大阪市御堂筋の道路空間再編に合わせてベンチを設置したもので、道路上の常設の課題に対応するため、社会実験での検証を通じて官民連携で試行錯誤・改善を重ね、道路空間の多様な利活用を支える新たなベンチとしてデザインしました。

同社では、今回の受賞を契機に、今後も地域伴走で進める「居心地が良く歩きたくなる」まちなか創出や地域振興に資する良質な公共空間のデザインの提供を目指し、国内外で社会に貢献できる、様々な事業展開を積極的に進めていく方針です。

グッドデザイン賞受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2025」に出展

本年 11 月 1 日（土）から東京ミッドタウンで開催される、最新のグッドデザイン全件が集まる受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2025」において、上記 2 件が本年度受賞デザインとして紹介されます。

<GOOD DESIGN EXHIBITION 2025>

会期：11 月 1 日（土）～11 月 5 日（水） 会場：東京ミッドタウン（東京都港区赤坂 9-7-1）

グッドデザイン賞とは

グッドデザイン賞は、1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を発端とする、日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みです。今日では国内外の多くの企業や団体などが参加する世界的なデザイン賞で、グッドデザイン賞受賞のシンボルである「G マーク」は、すぐれたデザインを示すシンボルとして広く親しまれています。

- 受賞対象名：日本初の歩専道で目指す地域共創まちづくり まちにち計画
- 事業主体名：買物公園エリアプラットフォーム・株式会社オリエンタルコンサルタンツ
- 概要：国内最初の歩行者専用道路である平和通買物公園において、市民と行政が共創する取組み「まちにち計画」により、歩くだけの“みち”から多様な活動が生まれる“みち（空間）”へ再生を図った。行政はルール緩和で活動を支援し、市民は自らがプレーヤーとなり、まちの日常を作り出す。2024 年度に実施した買物公園エリア社会実験では、緑を基調とした空間や地域木材を使ったモジュールデザインの家具を配置し、通り全体でのデザイン統一や空間の活用方法に合わせて柔軟に調整・活用できるデザインとした。さらに、公共空間ワンストップ利用申請制度「バスキングエリア」の設置により出店・出展のハードルを下げ、新たな人の流れと日常的な変化を生み出した。
- プロデューサー：買物公園エリアプラットフォーム（佐々木亮）、株式会社オリエンタルコンサルタンツ（青木秀史）
- ディレクター：買物公園エリアプラットフォーム（佐藤祐哉・四戸秀和・蜂須賀咲来・大内紘基・佐藤春香）、株式会社オリエンタルコンサルタンツ（勇崎大翔）
- デザイナー：デザイン事務所 kochia（荒木孝文）、グラフィックデザイナー（安達鈴香）



「2024 年度まちにち計画（社会実験）」における各ゾーンの滞在空間

【官民組織で実現する公共空間ワンストップ利活用の制度設計・運用】

官民組織※で実現する ワンストップのための制度設計・運用

※官民組織：買物公園エリアプラットフォーム（各ゾーンディレクター、メンバー）
＋運営事務局（市・業務受託者）



行政が使用想定を道路管理者・警察署と相談
包括的に道路使用・占用許可を取得



利用者はフォームから申込



運営事務局が各ディレクターへ内容確認
各ゾーンの未来ビジョン実現に対し、
親和性があるかを判断し許可へ



申請者へ許可を連絡、許可書の発行



利用当日は出店管理
（申請内容との照合・ルール遵守）
出展結果についてアンケートで情報収集

広場条例の制定により
利用者が挑戦しやすい
ワンストップの実装化へ

※ 広場条例とは
道路を「広場」として制定し、道路法の適用を受けず、広場管理者へ申請を行うことで
活用できる公共空間活用の促進を図る条例。

バスキングエリアの実施結果
（実験期間 28 日間）

総申込応募者数 **57件**

総出展回数 **123件**



パフォーマンス披露



飲食提供



物販



トーク・座談会

【滞在空間の什器デザイン：旭川地域の地域材×空間の活用に合わせられるモジュールデザイン】



北海道・旭川地域の伐倒時期を迎えた地域材（針葉樹など）を使用し、全体の統一感を持たせ
空間の活用方法に合わせて、柔軟に調整・活用できるモジュールデザインの什器

楕円形ベンチにも
波上ベンチにも



円形テーブルにも
角丸テーブルにも



机にも、イスにも
子どもたちのトンネルにも



重ねて
ディスプレイラックにも



日陰休憩スペースにも
DJブースにも



- 受賞対象名：御堂筋ほこみちユニットベンチプロジェクト
- 事業主体名：一般社団法人ミナミ御堂筋の会、大阪市
- 概要：まちを歩く国内外観光客や市民のニーズを探る多様な社会実験が行われる中、依然として道路上へのベンチ常設はハードルが高かった。常設に関わる諸問題を市・道路協力団体・デザイナーが共同で解析・検証し、常設可能な「御堂筋ほこみちユニットベンチ」を製作。ゆったり座れる滞留空間が御堂筋という道路上に誕生した。
- プロデューサー：嘉名光市、山口敬太、大阪市
 - ディレクター：株式会社地域計画建築研究所（中塚一、絹原一寛、竹中健起、竹内和巳）、株式会社オリエンタルコンサルタンツ（土崎伸、東川祐樹、八木彰一）
 - デザイナー：株式会社 GK 設計（門脇宏治、磯部孝文、近藤洋輔）、株式会社 OSHIROX、越井木材工業株式会社、有限会社田中製材所



御堂筋ほこみちユニットベンチのデザイン



通行を阻害せず整流を促す、イチヨウ軸に沿った配置

コロナ禍で開始したこのプロジェクトは、コロナ明けによる急激な人流増によって配置転換を迫られた。その課題に対しても本ベンチの展開性が発揮された。最終的な結論は、御堂筋のシンボルであるイチヨウ軸に沿うことで、木陰もでき居心地が良く、人々の往来とも共存する配置となった。



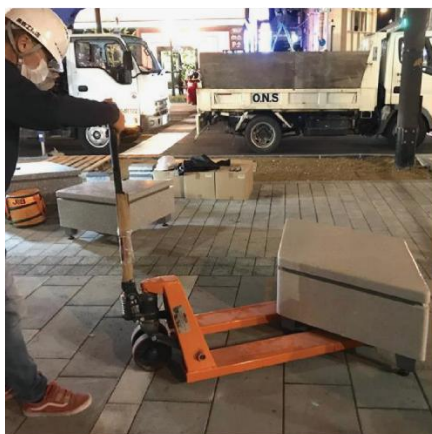
彩をつくる植栽ポッド

憩いのある道路空間に寄与する植栽をベンチにも取り込む。座面と同形の植栽ポッド。蓋を閉めれば、座面にも変化させることができる。モノトーンなベンチに色が加わる。



広告による持続化

維持管理のための収益化を見据えた仕掛け。御堂筋チャレンジ 2022 に試行。比較的加工が容易な木材の特性を活かし、好きなタイミングで取り付け、取り外しが可能。



ハンドリフターで簡単に移動可

脚部や底面をハンドリフターの爪が入る形状で検討。イベントや通行量に合わせて自由な配置が可能。



アジャスターと固定具

道は完全に平ではない。基礎を有しないベンチの大きな課題をアジャスターで解決。固定具により道路付属物としての固定性も担保。

以上

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011

URL : <https://www.oriconsul.com/>

統括本部 伊藤・日原・丸山・門司